

夏から秋への三里塚

討論・青年行動隊

通信 青年行動隊

— 第五號 —

1980.5.25

青行隊通信 5 目次

討論

たたかう農業 たたかえない農業	2
心の要塞をつくれ	4
反対同盟あるかぎり	6
成田用水は人買いパスだ	8
二期工事の前提 反対同盟解体	11
今は互いに、うしこ	12
勝利の鍵は	14
百万署名達成—四項目実現—二期完全阻止—廃港へ	15

はじめに

反対同盟、全国の人民が渾然一体となって、現空港を攻撃し抜く連月連日斗争は、二期着工の出ばなをくじき、農振策をはねかえし、千代田事業所移転を阻止するという、大きな成果をつかみとった。

敵が二期着工の足がかりとした「三里塚の大義をつぶす懐柔策」、空港絶対反対の決意を骨抜きにする誘い水は、あまりにも、見えすいていた。

我々は、この間の格闘のなかで、昨年九・一六で提案した四項目が、いかに重要かを実感した。四項目を実現する活気ある動きこそ、三里塚の戦さを勝利させる道であると確信する。

我々青年行動隊は、五・二五をかわきりに、百万人署名達成、四項目実現のための全国交流行動にうって出る。

我々は、百万人署名を通して、岩山の防音、麦田の基盤整備、両事業の資金、技術、労力を集中することに全力を尽くす。我々は全国交流行動を通して、現空港攻撃の態勢をさらにつくりあげる。我々は、二期着工反対百万人署名を耕運機に満載し、むしろ旗をおしたて、今秋（九月か十月）政府に対する大斗争に立ち上がる。

我々は、百万という数にこだわらない。一人でも多く、一人でも多く、我々の目的はそこにある。

種には蒔く時があり、芽をだす時がある。四項目の実現、百万人署名の達成——勝利の展望を共有し、夏から秋への三里塚を全力で戦い貫こう。

戦う農業 戦えない農業

「成田用水ができた底流って言うのは、木の根の風車で、同盟が農業問題に対して、はじめて運動の中に組み入れたわけじゃない。だから、その辺から話していかないと。」

「木の根の風車があったから、戦う農業を出したわけじゃあんめえ。」

「そりゃそうだけど、そうでなくて、成田用水との関わりからいえば、中郷部落なんかでの話しっぷりではよ、敷地内は、こういう形で、農業問題がある程度はやられていて、水の問題とか農業面での基盤が。そうすると、『成田用水は用地内に適用されないから、同盟全体としては成田用水はやるべきじゃない』というのが……その……親父らの感覚からいえば崩れてくるわけじゃない。用地内は、そういう形で、農業問題が解決されるのによ、おれらは、成田用水はやるなというところは、なくなってくるんじゃないかかっていう話しっぷりが出てくんだ。な。それと関

わりがあんののは、青行隊が出した四項目で、自前の農業というか、基盤整備をやるうというのが、じゃあ、具体的にやるという段階になってくるよ、かなり困難なところがあると、そういう言われかたをするわけじゃない。」

「基本的に困難なところは、何やったって困難だっぺえけどさ、即、成田用水に頼っちゃって、自分らでやるべえという気が全然おきないというこのほうが、むしろ問題をわけだっぺよ。自分らの問題を、青行が話しを先に進めないからって言うことで、ごまかしているわけだっぺよ。その辺が親父らの言い分というののすりかえがあるんじゃないかと思ひんだよ。基本的には、木の根の風車の問題と成田用水は、くっつかないにも関わらずそれを無理矢理くっつけてるわけだっぺよ。」

むしろ木の根の風車の延長という形でいけば、やっぱ、おれらの出した四項目の中の一項目の自前の基盤整備をどんなに難しいことであろうとも、やっていくという形が出てくるならば、極めて、自然に木の根の風車があったから、菱田もやるんだという形になるけどさ。それを、進めようともしないで、成田

用水に、即、行っちゃると言うのは問題のすりかえ以外の何物でもなくてさ、青行の野郎ら話を進めねえからだとかさ、自前でやんのは大変だからというだけでさ、そこを通過してしまったということが、問題の第一歩になっってきたんじゃないかなと思ひんだよな。」

「だから、そういうふうに問題をすりかえて、すぐ成田用水というふうに行っちゃるといふ背景にはよ、斗争に対して、やっぱりよ、一つ、親父らの中で見えてねえというかよ、そういうところがあると思ひだよな。やっぱ、それは、二期を阻止できるというところが全然ねえとよ、そういう気が、それぞれの中にねえというか。それと、やっぱ、年齢的に段々あがってきてよ、考え方としてよ、何というか、斗争の方向も、もう考えねえやしゅうめえみたいところがある、かなり出てきてっと思ひだよな。それは、斗争に対する同盟の気持ちって言うのが、明らかにある部分において、は変ってきているわけじゃない。何ていうの……：：：反対同盟は、出てく者に対しては、なんにも出来なかつたりよ、これだけの大き

な組織がありながら、生活面とか、その営農とか、そういう問題についての力というの何一つないよ。それは、そういうふうには言われたって、反対同盟というのには、そういうことの為に必ずしもあるという組織でもないわけだっぺ。」

「反対同盟がどっかにあってさ、反対同盟員がこっちにあるわけじゃないでしょ。そういうふうなことを感じとっている人々が、そういうふうな提起をしていかないことにはさ、黙って、まっして……よく敷地内の人が出ていく時に、そういうことを言うわけじゃない。」

「全然、おれたちのことを考えてくれない」と。だったら、出ていく人は、実際、前に出たった人のことを考えたのかと。

だから、言いまわしがさ、かえって斗争を否定するよりな方向、清算するよりな方向に動いていくってことだよな。」

「仮りに、成田用水が敷地内に適用されたからっていってよ、果して、反対同盟としては、それを呑んでもいいという話には絶対ならないわけだっぺ。それを敷地内に適用されないから、風車をつくって灌漑をするとかい

った意味ではないはずだっぺ。」

心の要塞をつくれ

「木の根に風車を建てたという基本的なやつは、敷地内に拠点をつくるっていいか、ま形の拠点でなくてさ、心の中に、木の根で頑張っている人らの心の中に拠点を、木の根で頑張ったわけだっぺよ。心の要塞としてやって、実際あれが、水がかかろうとかかるまいと、その辺がとやかくいわれる問題ではなかったわけだっぺよ。その為水をかけるといいうたけなら、他にも方法はあったらうしよ。そもそも、そういう目的において、木の根の風車はつくられたわけだから、そういうレベルでそれ以外の地域の用水問題というのが語られないとさ——」

「木の根は、やっぱ、戦いの拠点だよな。そういう意味でいえば、あれが、戦う農業として位置付けられっかっていうと、おれは決して位置付けられないと思うよな。戦う農業ってよ、かなり宣伝されているけどよ。戦

対で頑張っべえと言った時の気持ちで、とにかく頑張れたけど、なかなか、それが要するに、疲れてきたわけだっぺ。十五年やってきて、基本的にはさ。だから、そこでもって、新しい潤滑油みてえのが必要なのよ。それは何かから得るかっていうと、百姓である限り農業をこれから先、未来永劫にわたって農業をやっていくんだというエネルギーによってさ、戦う人間をつくっていくことが戦う農業建設なわけよ。

「菱田についてもよ、基盤整備をやるべえといたのは、成田用水をやるべえという話ではなくて、自分らで戦える、そういう基盤をここに作るべえと、二期工事は絶対やらせないと、おれらは最後まで、ここに残って頑張っだから、二期工事は絶対だめだという、そういう気持を持って人間をつくり出すために、おれらは菱田の基盤整備は必要なんだというふうに考えたわけなんだけど、そこは、どういうわけか、ゴロツと変っちゃってさ。」

「木の根の問題だっぺ、斗争のレベルで考えることができねえっていうか、それがまず問題なんだよ。それは、ある程度前々から斗

り農業っていうんだったら、もっともって農民が真似の出来るようなことをしなくちゃいけないんだっぺ。全国どこいっても通じるよなよ。そういう手段でやるのが本場の戦う農業だっぺよ。ああいうふうにカンパだけだとかよ、結局、人員がすべて支援の力と反対同盟の力でやるとか、そういう形になっていくことは、あれを真似してやるってことはできないはずだよな。そういう意味では戦う農業というのかもしれない、戦う農業になりきれない要素が一杯あると思うな、木の根の場合には。」

「戦う農業っていうのは、戦える人間づくりにって意味なわけだっぺよ。要するに、政府のいいなりになってやってく農民であって、はさ、いくら戦う、戦うといってもさ、それは言葉に終わっちゃうわけよ。実際、政府と一線を、いわば、空港をはさんでさ、向うとこっち、要するに、政府とおれらは対峙しているわけだから、そういう時に、空港のこっち側に、敵を向うにおいた、こっち側になれる人間を、やっぱ、いかにつくっていくのかという、それは、今までは、十五年前に、空港反

争やってきたわけだから、みんなも、そういうふうに考えるだろうというふうによ、ある程度あったわけじゃない。みんなの気持ちの中によ。だけど、結局そういうレベルでは、必ずしも捉えきれなかった同盟の人らがよ、やっぱ、菱田の中にもかなりあったというところがよ——斗争そのものに対する気力というのがよ、どっちかっていうと、打算的によ、十七戸十七戸とってたのがよ、いつのまにか十五戸になったと、そういうところから、必ずしも絶対に売らないという保証がねえじゃないかというふうに捉えてくるわけじゃない。

それは、何故そういうふうに出てくっかっていうと、それは、脱落していく用地内にも問題はあっけどもよ、そういうふうにしかならないものを見らんなくなってきた人間の方に問題があるわけじゃない。人のことという前に、自分にそこまでの確信が持てねえというところが、一番問題だと思っただよな。」

「戦う農業っていうのは、本来、開港という既成事実があるわけだけれど、そういう既成事実屈しないで、なおかつ、そういう既

成事実をくつがえしていくことができるよう
な人と人との在り方をわけじゃない。だから
敷地内は落ちるだろうという、非常に客観的
というか、第三者的に見ているわけだけど、
落っこちないで、ともにやっていけるような
形をどうつくりあげていくのかというのが戦
う農業の課題なわけだよな。だから基盤整備
をして、田んぼをよくするということも、戦
う農業の一つの中味であるわけだけど、基盤
整備をして、なおかつ、部落の人と人とのつ
ながりも戦いに向って進んでいけるような、
あるいは減反に対してどうやっていくかとか
そういういろんな問題がセットになっていな
いとさ、戦う農業でないんだよな。ただ基盤
整備に目がいたり、あるいは打算的になっ
たりっていうことでは。

結局、親父さんたちも、戦う農業というの
は多分そういうものだと思ってると思うん
だよ。だけど、戦う農業に形では期待してい
るようだけど、本当は期待してないんじゃない
いかと思うんだよな。

で、戦う農業っていろいろのは、本来今やって
る農業をかえていこうというもんだから、内

ば、自分の今とれるものは何でもとっちゃり
べという、後になつたらとれなくなっちゃり
からとっちゃりべという気持ちの中で出てきて
いるから、本当にもの言わない反対同盟員を、
戦わない反対同盟員をつくる第一歩である、
成田用水を受け入れるというのは、もうはっ
きりして、そりゃ部落の人らが言うには、
戦うために成田用水やっだと言いつつ、そ
りゃ口だけでしかない。やっぱ、生活の基盤
としての水田がそうであればあるほど、自分
らの力でとにかく打開していく道を今こそと
るべき時じゃないかと思うし、それと、さっ
きも言った、三里塚斗争について考えるとい
ったけど、要するに、勝利の展望がみえなく
なってきたり、というのも事実なわけだっ
ぺ。

敷地内が売っちゃりじゃないかとか。おれ
が思うには、反対同盟一人一人が、他動的な
ものでないっていうのか敷地内の問題で空
港斗争っていろいろのはわかるものじゃないとい
うことをこの辺で確立しなくちゃいけないと
思うんだよ。敷地内も敷地外も全く同じなん
だという——、土地があっから、ねえからっ

部的には対立を非常にはらむものだと思う
だよ。今の農業を変えていこうというんだか
ら。だから、支援からみれば、これは三里塚
斗争の、これからの方向性として非常にいい
と評価されるわけだけど、しかしながら、反
対同盟内部的には、戦う農業というのは対立
を生むというか、ただ、そういう対立を、本
当に越えていかなないと、本当に廃港をかちと
ったりしていく運動をつくっていけないと思
うんだよな。

反対同盟 あるかぎり

「だから、一人一人の考えが、いわば空港
斗争を中心に回転しなくなっている人間が出
てきているわけだっぺよ。要するに、空港斗
争が敗北しても、ここで残って農業やるため
には、成田用水をやるべえという考えに逆に
変ってきちゃってさ、成田用水云々じゃな
くて、自分らが、ここで頑張って、ここで空
港斗争をつづけるために、生活環境をよくす
るんだという気持とは違るところだよ、いわ

ていうんじゃないで、三里塚の基本的に勝利
の展望は、三里塚の反対同盟がいる限りは、
おれは二期工事は絶対できないと思うわけよ。
敷地内十五戸が、仮に全部売ったにしても、
二期工事は、それが売ったからって、突破口
になつて『はい、そうですか』といってすぐ
出来るってことは、おれは絶対ないと思うわ
けよ。

だから、今もっている力というのは、敷地
内も、敷地外も、反対同盟としての一人の力
という意味では、全く政府にとっては同じだ
と思うんだよな。

政府が一番困るのは、政府に刃をむいてく
る人間がどれだけのいるのかと、三里塚の現地
に、政府のやる空港計画はまずいという人間
がどれだけのいるのかということが、一番政府
にとつては重大なことさ敷地内の人間が土
地を売るとか、一人減ったとか二人減ったと
か、あんまり政府にとつては問題じゃないわ
けなんだよな。だから、その辺を敷地外の部
落の人らも、わかってもらわれないとしようね
えと思うんだよな。自分の存在が本当は重要な
んだっていうことをさ。

実際問題としては政府が瀬利を落したみたい、何億円も使って反対同盟の敷地内の人を崩そうなんてことはもう出来なくなってるわけだっぺよ。それが証拠には、敷地内だとか敷地外だとかは、余り、政府にとっても関係なくなってきたちゃってさ、あたかも、なかつたがいてるみたいな感じで考えているのは、反対同盟がそういうふうに、意図的に考えさせられちゃっているのだから、だから、おれは、今の段階で政府がなぜそういうふうになってきたかについて、今の反対同盟の実情というのかな、敷地内と敷地外の問題について、その話をみんなの中で、につめてみる必要があると思うだよな。敷地内、敷地外という言葉の由来をさ。

最初は、確かにそれで通ってきたけどさ今のこの時期にきて、おれはもうそんな言葉の重さなんか全くなくなっちゃっているんじゃないかなというふうに「だから用地内の人らは、今まで、おれらが売らなければ空港は出来ないと行って、そういうふうに頑張っていることが、三里塚斗争になったんだよな。で、用地外っていうの

の総意ということを、この間気づかいたがらやってきたわけなんだけど、それほど、総意にとられて、総意をうまくまとめなければ反対斗争が駄目になっていくんだというふうに考えるんじゃない、逆に金ちゃんなら、金ちゃんの斗いなり、そういうことをさちんと押えて、そういうものを確実につくっていくことによって、逆に分裂を招くんじゃなくて、反対同盟を現状維持でもいいし、もう少し昂めていくんでもいいけど、ちゃんと戦うところか、やっぱ反対運動をつくっていくんだというふうに考えた方がいいと思うんだよな。」

成田用水を進める側が、二月取った同意書は二通あり一つは、成田用水事業に菱田地区等を、新しく組み入れるための計画変更の同意書と、もう一つは、菱田地区が参加して来るまで、町が立替えていた水源確保のための払い込み金を、これからは自分で払いますということの同意書の二通である。さらに、土地一筆ごとの同意書が必要であり、これが、ほぼ完全に取り終らないと、用水事業は進められない。なお、金ちゃん（青年行動隊 寺内金一）の同意書撤回については、「執念城 二十四号」を参考にしてください。

「総意という形で出したのはよ、用水を進める上で、同盟が崩れればよ、用水をやる意味が全くなくなると、そういう意味から総意

は、そういうものはないわけだっぺ。何もなくても反対同盟でございませよとか、空港斗争をやってますという形にはなんなかつたわけだよな。それだからこそ一生懸命考えて、どうい運動とか、同盟的に用地内とどういりうふうに結合したら、反対運動として、力になつてやっつけていけるのかということ、いつも一生懸命考えてきたと思うんだよな。」

「そうだよな。」

「運動として作ってかなくてはよ、ただ土地を売らないというところだけではよ、この時点では、必ずしも斗争ということにはなんねえというところがやっぱあつたと思うだよな。」

成田用水は 人買いバスだ

「成田用水をすすめる場合もよ、菱田地区総体としてすすめるわけだよ、まきこんで。だから、逆に金ちゃんが同意書を撤回してそうじゃないんだという方法を逆にみせつけたわけでしょ。（※）だから、青行隊の一つの認識として、部落の総意、あるいは反対同盟

という言葉が出てきたわけだっぺよ。そういう意味なんだよな。しかも今回具体的に話が出てきたのは、二月のはじめの町議選のすぐあとなんだけども、結局、進める側の人間としてはよ、同盟全体が崩れねえような細心の配慮みてえのがよ、まずねかつたわけだよ。それと、菱田全部をまとめられる力量みてえのも、そういう人らにはねかつたわけだよ。それは、何故ねかつたかっていうと、中郷なら中郷の場合では、結局、基盤整備とか土地改良っていうのは、ある意味で強制収用までできるような、強硬的内容を含んだ法律であるわけじゃない。ところが、そういう問題を含んでいるにもかかわらず、同意書をとりにけるとか、説明会をやるときの杜撰さっていうのはよ、やっぱ、そういうことを全然留意してねえわけじゃない。それが一番問題なんだよな。」

「ムードづくりっていうか。昔、敷地内では、バスに乗り遅れるって言葉があつたらしいけどさ、いま乗らないと乗り遅れちゃうよっていうのと同じようにさ、今、成田用水をやんなきゃ、こりゃ出来ないうという意味で

菱田を全部とりまくようなムードづくりとい
るか、成田用水やるべえということは、かな
りあちら側も考えていたんじゃないのかな。
あとからみれば杜撰な面はいろいろ見受けら
れるけれども、強引に、ムードづくりをして
さ、バスに乗り遅れちゃりよというムードは
確かにあったよな。」

「ただ、それでは、やっぱ、絶対に出来な
いという感覚がある……。それは、営農の
個人差もあると思うんだよな。結局、もう自
分の田んぼの環境は、そんなに悪くなくてよ、
用水をやって、それだけの金を払っていくメ
リットが農業面に見出せないという人もいる
わけじゃない。そういう人に対する十分な説
得がないわけじゃない。おれらは、ドブ田で
困っけどもよ、あんたらはいかっけどよ、
まあ、これやってたいして得にはなんねえけ
ど、おれらの気持もくんで、ぜひ協力しても
らいてえというふうな話の進め方みてえのが
多少なりともあれば、よかったと思うだよな。
先ゆき何年もかかってよ、年間、いくらか
——一反歩について、一万五千円とか二万の
金を払ってかなきゃなんねえという人には大

とっては、この上もない攻撃のいわば突破口
だったわけだっべよ。

二期工事の前提 反対同盟解体

おれは菱田で、なぜ成田用水をあそこまで
強行にやつらがやるうとしたのか、というこ
とについては、さっきも言ったように、敷地
内だけ落とせば、飛行場は出来るといふう
に、決して、政府は思っていないわけよ。要
するに彼らは、二期工事の出来る前提とい
うのは、反対同盟がつぶれること以外にない
と思うんだよな。政府のある一部の人間が言っ
てるわけだっべ。「敷地内がゼロになっても、
まだ二期工事はできませんよ」と。

一期分が開港されたという事は、現状の
中で、反対同盟に人質にとられているのが
向うの状態であって、敷地内を仮にゼロにし
て、さて二期工事ですという事になったら、
今度、ぶってでるのは、やっぱ、二期工事に
対して戦うのは当然だろうけど、一期工事に
対する直接的な攻撃っていうのが展開されざ

してメリットがねえわけだべよ。そういう人
に對しても、結局頭を下げるとか、ていねい
に説明するということが一つもないというこ
とは、そういう意味では、空港斗争とか関連
事業という問題を除いても、一般的な事業の
進め方としても、おかしかつたんじゃないか
と言えるところだよな。」

「だから、自分らの側から出てきたもんじ
ゃなくて、あくまでも、お上のやった官僚事
業をわけだっべよ。成田用水っちゅうのは。
お前らにやってやっだど。やってやっからお
前らは言うことを聞けという表われとしてさ、
で、上に立っている何人かの反対同盟の成田
用水やりたい人らの親分らの説明でいけばさ、
大体十中八九、皆やりたがっているから、何
ということなく進むという説明を真に受けて、
成田用水の土地改良区っていうのは、そうい
ういい加減な情報のもとにやってきたからさ、
若干、説明会を開いて、すぐ同意書を集める
というやり方で出てきたわけだっべよ。

それで完全に向うとしては崩せるというふ
うに思ったわけよ。逆を言えば、ある程度、
地域ボスを手中に収めたということは向うに

るをえないだろうしよ、そういう意味では、
反対同盟をつぶして、全国から三里塚を戦う
人間が全然来ないような状態にすることが、
彼らの二期工事の前提であるために、二期工
事はやりやす、やりやすといっても、今だに
出来ないことになっているわけ、そういう
意味では、今、反対同盟全体を一緒くたにし
て、ぶつつぶそうという腹の中で、その第一
歩の敵の攻撃っていうか、敵にとっては布石
として、菱田地区の成田用水をやるうとした
わけで、そのことによって、敷地内外の対立
を生ませ、不信を更に持ちあうようにさせて、
反対同盟を解体していく、そういう敵の一つ
の方針の中で、成田用水の強行っていうのが
出てきて、今日にいたったんじゃないかなと
思うわけよ。

そうでないなら、手をかえ品をかえ、予算
をとって、二期工事を進めるため、敷地内農
家を脱落させるための行動をとれるわけだっ
べよ。瀬利を落したように、一軒に十億も出
せばよ、十億でたりなけりゃ、仮りに百億を
出すということになればさ。だって、敷地内
が落ちれば、二期ができるということになれ

ばさ。」
①「敷地内をゼロにするためにはさ、反対同盟がなくなんなきやゼロになんねえんだよ。そういう言い方をすれば。」

②「だから、一番恐ろしいのは、逆に言えば敷地内をゼロにして、そして、二期工事は、それでも出来ないという状態になってきたら国民から政府・公団は、バンバン、文句を言われて、それで、実質的に工事を始めようとする、一期工事も大変なことになっちゃうという状態が、一番恐ろしいから、彼らは、なかなか敷地内ゼロを目指して攻撃をして来ねえんじやないかなというふうに思ってるわけ。

だからどうしても彼らにとって必要なのは、反対同盟解体が必要であって、実際、二期工事が出来れば、その下に住めないような、例えば、辺田とか、あんなところの用水やったとこで、何にもなんねえわけだっぺよ。ところが、今、彼らが言ってるのは、菱田の辺田の地域についても、菱田の人の自由にやって下さいという言い方をしてるわけだっぺよ(半)

菱田地区における成田用水事業、六十数町歩には、辺田部落から空港寄り、木の根にくいこむ形で、存在す

いうのは、敵の攻撃もなくてさ、敵も暗中模索、反対同盟も暗中模索という中だからこそ、勝利が見えなくなってきたりするけれど、おれは、そういう状態だからこそ、よく考えれば、勝利の展望性はあるんじゃないかというふう

に思えるわけよ。

敵がどんだん、どんだん攻撃をしかけて、本当にきている時は、やっぱ、おれらは後退だよ。どっちかって言うと、どんな素晴らしい戦いを出来たとしても、先へ出ることはないよ。戦いは、より高度になって、素晴らしいと言われる戦いをやるかもしれないけど、空港建設は戦いがあればあっただけ、進むわけだから。ところが、お互い戦いもできずに、お互い、うしこ(半)。後ずさりばかりやってるっていうか、やっぱ、こりゃ、勝利の展望をわけよ。逆に言えば。」

アリ地獄のことで、うすばかげろうの幼虫。地面にすりばち状の穴を掘り獲物が落ちてくるのを、辛抱強く待っている。穴から外へ出ることはない。カニの横歩き同様、習性上、絶対、前へは出ない。

「時間的に耐えていくってえのは、しんどいけどよ。ある意味では、これ以外にねえみ

る谷津田は含まれていない。
この部分が提示されなければ、辺田部落としては、何も言えないという意見が強く、県、町としては、この部分は、九月に追加される三百町歩の中に組み入れて、一緒に用水事業を行なうと回答している。

何故そういうふうにするのかというのと、『当面は田んぼにしておいてもいいからさ、そのうち、二期工事が出来て、滑走路が出来てよ、バンバン騒さくなれば、菱田の辺田のあの辺の野郎らは皆出ていっちゃうからさ。出てったあとゆっくり、今度は平らにして、アプロ1チでも何でも作れば一番簡単なわけだ』と向うは思っているからよ。

彼ら、あくまでも、反対同盟の解体をねらって、時間は充分、むこうはかけると思っている。まだ、一年でも二年でも三年でも四年でもさ、そういう意味ではさ、――

今は互いにうしこ

おれら勝利の展望というのにはさ、まあ、部落の父ちゃんらは、勝利の展望が見えなくなつたというけどさ、勝利の見えない状態って

てえなとこがあつと思うだよ。そっで、最初、田中角栄なんかやっつた頃の勢いからみればよ、誰も、ここへ来て石油がなくなるのかそういう考え方っていうのはねかつたと思っだよな。あの勢いを見ればよ。ところが、結局、十四年なら十四年もって来たところでよ、やっぱ、世の中変わるわけじゃない。それは、ある程度、力でゴリ押しされれば、開港までは、行くかもしれないけどよ。やっぱ、世の中全体の状況が変わってきて、必ずしも巨大な飛行機がよ、これから先、必要になつてくるのか、これから先、ガソリンをうんと食う飛行機が何機も飛ばなきゃ、日本がもたねえのかって問題って必ず出てくつと思っだよな。で、それは、仲々、わかんねえわけじゃない。今の時点では。だけでも結局、十五年なら十五年という長い時間で問題を振り返ってみればよ、やっぱ、すごい変りようなわけじゃない。そこでは、時間的にもちこたえていくというところが、やっぱ必要だと思っんだよな」

「ただもちこたえるだけじゃなくて、破れた服につきをしていくんじゃないかって、新しい運着物をみんな着ようというより新しい運

動をよ、この時間の中で、こちらも、ただ我慢するんじゃないかと。……」

④「そりゃそうだよ。もっていかないんだからよ。は運動がなきゃ、もっていかないんだからよ。」

⑤「戦いがあって、みんなが隣りに坐りこんで、坐り込みなんかしたり、あるいはバリケードに鎖つないだり、地下壕を掘ったりしてるときは、あんまり不信感っていうのはないわけだよ。今は、そういうものがないから、他のもので、そういう信頼関係を作っていかなくちやなんないわけだよな。」

⑥「やっぱ、敵の攻撃そのものも違うしよ、向うの攻撃が違えば、こっちが、旧来の斗争のイメージで、これから先もよ、同じような斗争があるというふうに設定していけばよ、やっぱ、負けるわけだよな。同じイメージっていうか、想像力じゃなくてもなかつたとしたらよ。」

⑦「刑事事件では、重罪判決を出してさ、強硬にやってみるじゃない。反対同盟対策では、じっくりしてるよな。見えないところからさ。」

勝利の鍵は

⑧「敵はあきらめてはいないってことだっぺ基本的にはさ。今度、成田新立法を、木の根些と岩山団結小屋に、再々適用する方針を、政府は明らかにしたし、この前の地崎運輸大臣の二期工事発言もそうだし、そろそろ時期がいつまて来ているとか言ってるべえよ。それと、パイプラインのほうも、完全開港めざして、えらい急いでやってくるしよ、例の内閣官房の加藤紘一も、また登場してくるって話だし、ともかく、二期工事着工についての政府の腹は、まったく変わってねえわけよ。」

ただ、今の段階で、一つおれらに勝利の展望としてあるのは、いわば戦いの姿勢というものは現状維持で、この戦いを保っていくということとさ、もう一つは、皆でやる共同事業というか、共同斗争というかさ、そういうのを一つ作り出す必要がどうしても、ると思ろだよな。一緒にスクラムを組むとかさ、一緒に

に鎖でつながるとかさ、そういう直接的な、武力での作業というか戦いが、設定しづらいつらいつら現状の中ではさ、それでも反対運動として、おれらは作って行って、やっぱ、勝利を目指すという戦いが、どんな時期でも本来は必要をわけでさ、そういうためには、去年の九月十六日、おれらの打ち出した、四項目を本当の意味で、まあ……連月連日斗争というの、今年の九月が来れば、一年。おれらのやろうとしたのは一年間をわけだつて、一年間の連月連日斗争をやつて、とにかく、今年六月の二期工事着工を阻止しようという形で、やってきたわけだけでも、その目的は、ほぼ達成できたわけだつてよ。今日に至って考えればさ。

おれらの狙い通りに、敵は二期工事に対して一歩も手を出さなかつた出来なかつたということを考えればさ。そういう意味では、一つ、結果的に敵がそうできなかったというのは成果としてあるけど、もう一歩、九・一六で打ち出した四項目の実現に向けて進んでいて、四項目の実現こそが、反対同盟を不撓不屈のものに創つて

いくことであるしよ、やっぱ、勝利の展望というか、勝利の為のポップ・ステップ・ジャンプで言えばさ、ポップだと思ろんだ、そういう意味で、おれはやっぱり内部的な結束のためもそうだし、敵に対する力もそうだけど、成田用水については、本気で、おれらが、成田用水でない自分らの基盤整備をやるということがひとつと。

百万署名達成 四項目実現 二期完全阻止 廃港へ

これから、九月までの間に、おれが思うに百万人署名も、あれは打ち出した時には、やることかねえから百万人署名をやるべえみたいな形で出たきらいが多くて、仲々、集中できなかったけども、今、この政府の燃料危機、航空需要の延び悩み、その他、不慮な空港という成田空港の実状を考えれば、本当の意味で、廃港への展望性というか、それは、やっ

は、百万人の署名といえ、仮りに国民の百人に一人の署名だけでも、それでも集めきる力をもって政府に対して、絶対に空港はまづいんだという戦いを展開していける時期じゃないかと思うんだよな。

要するに、おれらが打ち出した一年目を、今年の九月十六日の前後にまたあるだろうけど、その戦いというのは、おれが思うに、東京——東京というか空港をつくろうとしているのは、やっぱ、政府だからさ、政府に対して百万の署名を耕運機に積んでさ、政府に向かって戦いを開始する時じゃねえかなと思うんだよな。

要するに現場の衝突もあるけれども、現場の衝突の力関係だけで、空港の存在が決定されるわけじゃないわけだからさ、今のそういう情勢の中で、政治的な戦いというふうになっちゃうわけじゃないけどさ、それでも、やり切ることが敵と対峙して戦っていく姿勢というのは全く変っていないわけだから、その意味で、百万人署名の本当の実現というのが、それが出来る時に、反対同盟内外の不信というのは、一掃されて、ま、それだけでは、

ない口実みたいな感じにならざるを得ないよな状態だからさ、今こそ、廃港めざして、本当に戦いを開始する時期じゃないかと。

去年の九・一六の時には、とにかく、二期着工だけは妨ぐべえと、来年、選挙前後と言われた二期着工だけは妨げたのだけど、今にして、ここまで事態がくれば、やっぱ、本当に、二期完全阻止、二期廃案、そして一期の廃港を目指して本当に戦えるという時期という意味では、一番いい時期だと思ひし、そういう意味でも、百万人署名の実現の力をもって、打って出るといふ、去年九・一六で出した、第四項目をこの辺でやれる時期ではないかと、やっぱ、空手ぶらで行ってもしょうねえから。」

「署名っていうのは、今までも、おれらのところに、いろいろ来るわけじゃない。団体から。でも、結局、この署名をやって、どれだけの力になるかってところが、みえてなくて署名するわけじゃない。だから何か、斗争の一環としてみなやってるからよ、みなやるという感覚があるわけじゃない、署名に対して。だけでも、一つ考えていかなきゃならな

一掃されないかもしれないけど、それによって、みんなして力を合せて、政府に戦いを開始していくという、そういう共同作業をする中で、再度、団結力が回復してくるんじゃないかなと思うんだよな。今のままでは、基本的には、勝利の展望性が見えないところでお互いにつか負けちゃうんじゃないかなってところで、おこってきけるわけだからさ。

今までは、何とかしても勝つべえというところで頑張ってきたけどさ、実際、飛行機が飛んでる中で考えれば敵は強大だから、また、二期工事もやられちゃうべと考えるのが、大方の人の見方になってるわけだっぺよ。でも、現実はそのようになって、敵も、一期工事だけで、フーハー、フーハー息ついちゃてさ、とても二期工事まで、おぼつかないという実状であるにもかかわらずさ、敵にとっても、反対同盟がつぶれちゃえばやらざるを得なくなるし、たとえ、メリットのない空港でも、反対同盟、みんなお手上げになっちゃえば、やんねえことには、国民から、おこらっちゃうわけだからよ。

今の反対同盟では、政府の二期工事をやら

いのは、これを達成した段階で、どういう形で、それが力になっていくのかとかよ、運動として、署名達成以後、どういふ展開が出来るのかという展望まで出さないから、集って来ねえところがあると思うんだよな。」

「そうだよな。」

「それは、署名していく過程で運動として大事なことあっけどよ、もう一つ、それをして切ったからには力に代えるだけのよ、意気込みっていうか、それ以後の行動っていうのが大事になってくっと思うよ。」

「結果に表わしてもらわないとよ、やる方にして、やってもらう方にしても、それだけの効果が見えねえはずだからよ。これからの戦いというのは、ある程度そういう効果的なものを形で表わしていかなくちゃしょうねえよな。そういう時に来てるよな。」

「今、用水の問題から行って、一応の結論まで行ったわけじゃない。」

「おれは結論あせっからよ。」(笑)



発行

三里塚空港粉碎青年行動隊

領価 二百円

千葉県山武郡芝山町菱田辺田

TEL 〇四七九七(八)一〇五四